

学びの音

片道 1 時間。特急列車に揺られての「小旅行」が、私の日常の通勤です。

スマホで動画を観たり、PC で原稿を作ったり、ボーっとしたり……。何かに夢中になっていても、「次の停車駅は、〇〇です」という聞き慣れた駅名が耳に入ると、不思議と意識がそちらに向きます。たくさんの音の中から、自分にとって必要な音に注意が向くのです。

こうした、多くの音の中から特定の声を選んで聞き取る現象は、「カクテルパーティー効果」と呼ばれています。そんな「音」のことを考える出来事が、先日、学校でもありました。



校舎を歩いていると、音楽室で作業をしている職員の姿が目に入りました。机の上に椅子をひっくり返し、その脚の先に、一つ一つ黄色いテニスボールを取り付けています。時間講師の先生が、知り合いのテニススクールの方から使わなくなったテニスボールをいただき、持ってきてくださいました。テニスボールを再利用し、椅子を動かしたときに生じる音をやわらげるための工夫です。

その姿を見ながら、電車とは反対のことを考えました。人間には、たくさんの音の中から必要な音を選ぶ力がある。けれど、子供たちが学ぶ教室では、そもそも「必要のない音」を少し減らすことも大切なのではないか。

近年の研究では、子供が雑音の中から必要な言葉を聞き取る際には、「注意」や、情報を一時的に保持しながら処理する「ワーキングメモリ」が関わるということが報告されています。研究条件による違いもあり単純化はできませんが、「周りがうるさくても、集中すれば大丈夫」とは言い切れません。

だからこそ、子供に「集中しなさい」と求めるだけでなく、集中しやすい環境を大人が整える。それも教育の大切な仕事なのだと思います。

さて、1 年生の教室では、2 学期になり、初めての漢字学習に取り組んでいます。聞こえてくるのは、かすかな鉛筆の音だけ。一画、一画、確かめながら書く子。鉛筆の先をじっと見つめる子。書いた文字を見直す子。肝心なのは、正しく漢字を書くことです。その空間は「静かにしなさい」と言われて生まれた静けさではありません。一人一人が学びに夢中になることで生まれた静けさでした。



改めて考えてみると、テニスボールを取り付けていた場所は「音」が主役になる音楽室です。歌声を響かせる。楽器の音色に耳を澄ませる。友達の音を聴き、自分の音を重ねる。そこでは、音を消すことが目的ではありません。大切な音をよく聴くために、必要のない音を減らすのです。

学校は、静かであればよいわけではありません。友達と考えを伝え合う声もいい。笑い声も、歌声も、歓声もいい。一人でじっくり考えるときには、鉛筆の音が聞こえるほどの静けさもいい。

大切なのは、単に「静かな教室」にすることではなく、その時、その学びにふさわしい「音」のある教室をつくること。

今日も校舎を歩けば、いろいろな「学びの音」が聞こえてきます。音楽室から響く歌声。友達と考えを交わす声。そして、自分の学びに向き合う 1 年生の教室から聞こえてきた、かすかな鉛筆の音。

どの音も、子供たちが今、学んでいる音です。

おっと、そろそろ退勤時間です。お腹からグーっと音が鳴ってます。何の音でしょう……。